

會務報告

第 24 卷 第 12 號 昭和 13 年 12 月

役員會

第 9 回常議員會 (昭. 13. 10. 18)

出席者: 新井副會長, 阿曾沼, 青木, 伊藤, 岡田, 金子
樺木, 川口, 高橋(嘉), 松田, 森田各常議員,
小野寺庶務主任

報告

1. 土木學會中部第 1 回役員會議事を報告せり。
2. 土木學會中部支部總會を金澤市に於て開催の次第を報告せり。
3. 北海道支部役員改選の結果 (北海道支部記事参照) 報告せり。

議事

1. 安藤天一君外 40 名を會員に, 青島榮末君外 83 名を准員に, 粟飯原好次君外 181 名を學生員に入會を, 准員上野庄三郎君外 104 名を會員に, 學生員稻川哲夫君外 1 名を准員に転格を承認せり。

2. 副會長 1 名の補缺選舉投票の開票を後記役員立會の下に執行し結果次の如し。

投票人員 792 名

| | | | |
|-----|----|-------|------------|
| 副會長 | 當選 | 742 票 | 堀 越 清 六君 |
| | 次點 | 5 票 | 吉 田 德 次 郎君 |
| | | 5 票 | 阿 曾 沼 均君 |
| | | 3 票 | 瀧 山 與君 |
| | | 3 票 | 佐 藤 利 恭君 |
| | | 3 票 | 山 口 昇君 |
| | | 3 票 | 宮 本 武 之 輔君 |

以下略す。

立會役員

| | |
|-----|----------|
| 副會長 | 新 井 榮 吉君 |
| 常議員 | 阿 曾 沼 均君 |
| 同 | 岡 田 信 次君 |
| 同 | 森 田 三 郎君 |
| 同 | 松 田 全 弘君 |

第 19 回理事會 (昭. 13. 10. 27)

出席者: 辰馬會長, 新井副會長, 金子, 岡田, 川口各理事,
中村書記長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任,
糸川編輯主任, 外晩餐會出席者 田寺元治君,
大河戸前會長, 遠藤貞一君

報告

1. 中部支部役員の就任 (中部支部記事参照) を報告せり。

2. 新井副會長より中部支部總會の模様を, 中村書記長より西部支部委會式の模様を報告せり。

議事

1. 外人功績調査委員會委員に上村義夫君を追加依頼することとせり。

2. 中部支部長の後任に北澤忠男君當選せられたるに依り依頼することとせり。

3. 支部長會議を 11 月 20 日頃開催することに申合せり。

4. 支部交附金改訂の件に関しては具体案を作成し次回理事會に於て更に協議することとせり。

以上の議事終了後, 北京公路工程局參事田寺元治君を丸之内會館に招待し, 晩餐會を開き席上北支最近の事情に就き同君の講話を拜聴せり。

第 20 回理事會 (昭. 13. 11. 7)

出席者: 辰馬會長, 新井, 堀越兩副會長, 金子, 高橋, 岡田, 川口各理事, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任

報告

1. 北海道支部幹事に酒井忠明君追任の報告ありたり。

2. 中部支部創立總會費收支計算別紙 (省略) の通り報告ありたり。

3. 關西支部第 9 回役員會議事を報告せり。

4. 北海道支部第 3 回役員會議事を報告せり。

5. 西部支部評議員佐藤忠三郎君転動に伴ふ後任に大木利彦君就任の報告ありたり。

議事

1. 中部支部管内の入會者に對する入會金の免除を 11 月末日まで 1 ヶ月間延長することとせり。

2. 東北支部 13 年後改訂豫算別紙 (省略) の通り承認することとせり。

3. ジャパンタイムス社と會誌交換の件は一応調査の上承諾することとせり。

4. 八田嘉明君の拓相親任祝賀晩餐會を下記の通り開催することとせり。

(1) 日 時 昭和 13 年 11 月 15 日

(2) 會 場 東京會館

(3) 徴収會費 3 円、但不足會費は學會負擔とすることとせり。

5. 支部長會議を 11 月 22 日(火曜日)午後 3 時より丸之内會館に於て開催し次の事項に就き協議することとせり。

- (1) 學會振興に關する件
- (2) 支部交附金に關する件

6. 支部長會議に於て協議すべき支部交附金の改訂は大体別表(省略)に依り検討することに申合せり。

總 務 部 記 事

第 20 回土木學會文化映畫委員會(昭. 13. 10. 3)

出席者: 青木委員長, 瀧尾, 廣田, 五十嵐, 横田, 片平各委員

1. 本委員會主催の映畫會の準備, 借用し得る映畫次の如し。

- (1) トンネル(男の魂) 三映社
- (2) 水害ニュース 内務省東京土木出張所
- (3) 沈み行く小河内 日大藝術科
- (1) 及 (2) にて約 3 時間の豫定。

2. 青木委員長より講演と映畫の夕に上映すべき下山氏撮影の「歐米都市文化施設」の内容説明あり。

3. 土木學會西部支部發會式に會長の携行される映畫を次の如く推薦せり。

前會長の北支に於て撮影された映畫 又は内務省東京土木出張所に於て買収改編せる水害ニュース映畫

4. 応募シナリオの審査結果は雑誌に發表することとす。

5. 応募シナリオの一次審査の一部を行へり。後 1 回で一次審査終了の豫定。

編 輯 部 記 事

第 11 回會誌編輯委員會(昭. 13. 11. 9)

出席者: 伊藤(信), 大岡, 太田尾, 風間, 黒澤, 立花, 當山, 野口各委員 糸川, 志村編輯囑託

協議事項

1. 第 24 卷第 11 號所載原稿の謝禮を決定す。
2. 第 24 卷第 12 號に左記々事を追加す。

講演: 北支土木事業に就て(會, 工博, 大河戸宗治), 北支土木事業に就て(會, 工博, 新井榮吉)

彙報: 淮南炭礦と淮南鐵道(會, 岡田信次)

抄録: シリンダ及プリズムの振りと撓の問題,

Rhein-Mein-Donau 河の連絡する大運河, 連絡梁の最大撓を求むる図表。

3. 第 25 卷第 1 號に登載すべき原稿を下記の如く決定す。

論說報告: 感応電流による土圧測定法(准, 神谷貞吉), 雄物川新川の通水に就て(會, 野瀬正人), 八幡濱線夜妻隧道工事に就て(會, 小田金治), 埋立による大阪の海岸線移動に就て(會, 坂元左馬太), セメント糊中の水力と圧縮強度(准, 篠原謹爾), 緩速濾過池に使用せるポーラス・スラブ(會, 鈴木銀次郎), 花崗岩地帯の砂防植物に就て(准, 猶原恭彌)

彙報: コンクリート構造物の久敗の経緯(會, 西畑 常)

抄録: 函形ラーメンの設計, 粘土層に於ける剪断抵抗に關する Coulomb の方程式, 鉄筋コンクリート丁形梁の中立軸計算図表, 新形式の鉄筋コンクリート桁, 水文学に對する氣象臺の貢獻, Miami 河の洪水調節, 1938 年の Los Angeles 洪水報告, 濕地に於ける道路建設, 事故地帯の照明に就て, Reading 市航空港, Norfolk の駐車場, 經濟的な高橋脚鉄筋コンクリート桁橋, ボックス・ガーターの一例, 平面交叉除去に關する參考資料,

關 西 支 部 記 事

第 9 回役員會(昭. 13. 10. 8)

出席者: 鳥崎支部長, 石原, 箕, 鈴木(角), 鈴木(義)各商議員, 後藤, 清水兩前支部長

議 事

1. 水害對策調査委員會報告の件
2. 昭和 14 年度豫算の件
3. 關西大會の件
4. 西部支部發會式へ代表出席の件
5. 昭和 13 年度特別員會費補助の件

各種委員會の開催

1. 土木事業計畫審査委員會第 4 回水力部會(昭. 13. 9. 12)
2. 同 第 3 回橋梁部會(昭. 13. 10. 8)
3. 同 第 5 回水力部會(昭. 13. 10. 10)
4. 同 第 2 回河川部會(昭. 13. 10. 20)

東 北 支 部 記 事

第 2 回觀察旅行會記事

時恰も 10 月初旬の好期に際し又好天氣に恵まれ參

加會員數 61 名に及び盛會裡に本視察旅行會は行はれた。

行程の要は次の通り、

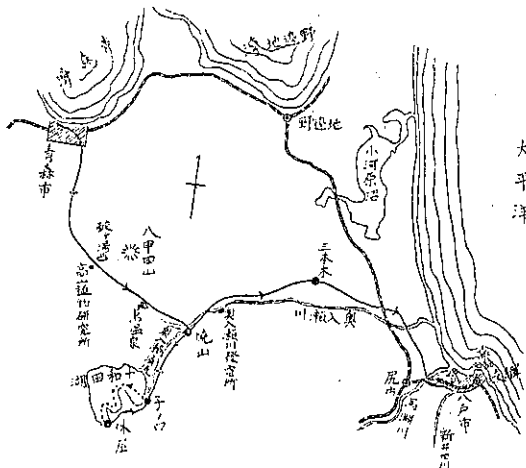
1. 10月9日午前8時青森驛前集合

2. 行程

第1日(10月9日)

- 午前 8.20-8.50 青森海陸聯絡及築港工事視察
- 〃 9.00 青森驛前(省バス)發
- 酸ヶ湯, 東北大学高山植物研究所, 八甲田山紅葉, 海陸空大展望, 水運沼, 葛温泉, 奥入瀬溪流等視察觀光
- 午後 0.40 子ノ口(十和田湖畔)着
- 〃 0.50 同 (乗船)發中食
- 〃 2.00 休屋(十和田湖南岸)着
- 〃 2.10 同 (省バス)發
- 〃 3.30 燒山着
- 〃 3.40 同 (十和田鉄道バス)發
- 東北振興奥入瀬川發電所建設工事視察
- 〃 5.10 三木木町着 新渡戸傳翁遺業視察
- 〃 5.30 三木木町(十和田鉄道バス)發
- 〃 6.30 八戸驛着 市バス乗換
- 〃 6.50 鮫驛宿舍着
- 〃 8.30 大懇視會

圖-1. 行程圖



第2日(10月10日)

- 早朝天然紀念物燕島(海貍棲息)自由視察
- 午前 8.30 宿舍附近集合(モーターボート, バ

スにて)魚市場,八戸築港,磐城セメント工場,馬淵川改修,工業地域視察
八戸驛にて解散

- 〃 10.30
- 3. 會費 7円(集合より解散まで一切の費用)

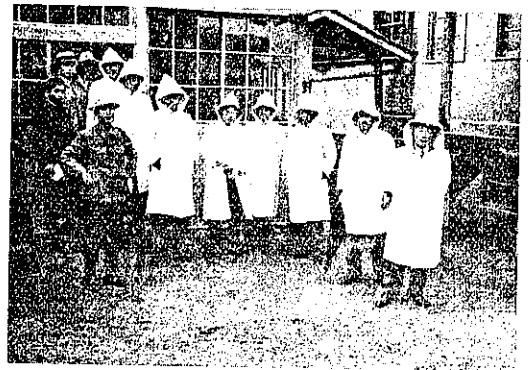
圖-2. 十和田湖船中



圖-3. 立石發電所休憩所



圖-4. 磐城セメント工場視察



北海道支部記事

役員會(昭.13.10)

議事

- 1. 商談員及幹事改選の結果次の如く留任又は新任せり。

商議員留任 神保金衛君、井口鹿泉君、渡邊榮五郎君、奈良部龜松君、菅 良二君

同 新任 調所武光君、小野諒兄君、稻積龜二君、宮本 保君、山岡信吾君

幹事留任 小川讓二君、新任 大坪喜久太郎君

第 3 回役員會 (昭. 13. 10. 31)

出席者: 吉町支部長、鷹部屋幹事長、大坪幹事、小野、井口、調所、宮本、稻積、菅、山岡各商議員

議 事

- 1. 幹事 1 名増員の件 (酒井忠明君就任)
- 2. 主事 1 名任用の件
- 3. 本年度中講演會及見學會開催の件

中 部 支 部 記 事

第 1 回役員會 (昭. 13. 9. 25)

出席者: 杉山支部長、池田、大串、金古、城戸、永田、花井、平川、山口各評議員、北澤幹事長、塚本、船本兩幹事

議 事

- 1. 昭和 13 年度事業豫定の件
- 2. 秋期總會開催地決定の件
- 3. 役員補缺の件 (評議員畠山好伸君及幹事三上昭君転任のため缺員)
- 4. 會員募集の件
- 5. その他の申合

第 1 回總會 (昭. 13. 10. 23)

會 場: 金澤市石川縣會議事堂

議 事: 故杉山榮君の後任支部長選挙の結果北澤忠男君當選せり。

講 演: 土木学会副會長新井榮吉君及名古屋市水道局擴張課長成瀬薫君

見 学: 金澤市兼六公園その他

懇親會: 山中温泉吉野屋に於て開催

第 2 回役員會 (昭. 13. 10. 23)

議 事

- 1. 評議員並に幹事長及幹事次の通り就任せり。
評議員 鈴木鹿泉君 (畠山好伸君の後任)
幹事長 塚本 積君 (北澤忠男君の後任)
幹 事 杉 戸 清君 (三上 昭君の後任)
同 比企野廣治君 (新 任)

定期總會報告

土木学会中部支部は本年5月29日開催の創立總會の

決議に基き本年の秋期總會を開催すべき場所を役員會に於て審議の結果金澤市に開催する事に決定し、夫に由り石川部會其の計畫を樹て下の通り之を實行した。

- 1. 日 時: 昭和 13 年 10 月 23 日午前 9 時
- 2. 場 所: 金澤市石川縣會議事堂
- 3. 總會次第: 自 9 時至 10 時

閉會の辭、皇居遙拜、国歌奉唱、皇軍將士武運長久祈願の爲 1 分間黙禱、座長推戴、座長挨拶、支部長の互選、支部長挨拶、會務報告、來賓祝辭、閉會の辭。

- 4. 講 演: 自 10 時至 11 時 30 分

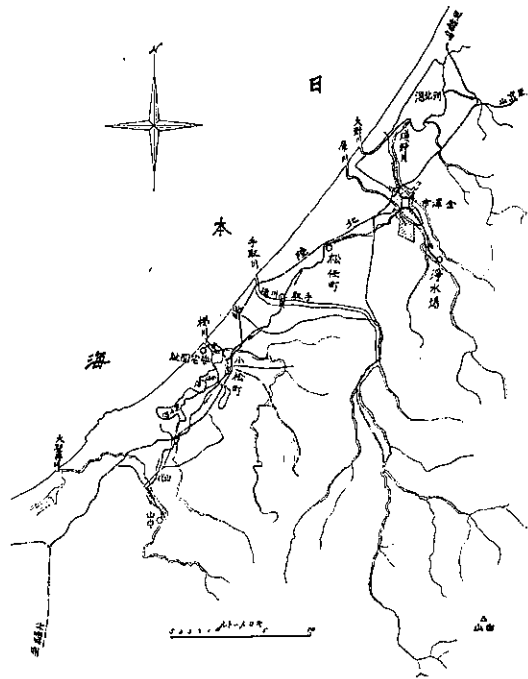
(1) 上海の水道

名古屋市水道局擴張課長 成瀬 薫君

(2) 北支の土木事業に就て

土木学会副會長工学博士 新井榮吉君

圖-5. 行程圖



- 5. 見 学: 午前 11 時 30 分縣會議事堂出發——金澤市水道淨水場見学——晝食——兼六公園見物——

圖-6. 手取川橋梁



松任町千代女遺跡見学——手取川橋に於て手取川改修工事視察——安宅町に於て安宅關址及梯川改修工事視察——山中温泉浴

6. 出席會費：見学参加者より金 1 円 50 銭宛徴集

7. 晚餐會：午後 6 時 30 分山中吉野屋旅館に於て晚餐會開催。

西部支部記事

役員會

議事

1. 商議員佐藤忠三郎君転任に伴ふ、後任として大木利彦君就任せり。

土木學會西部支部發會式記事

(昭和 13 年 10 月 16, 17 日)

本會西部支部設立の議は本年春頃より漸く具体的に進められ、6 月 10 日發起人會を開催し、7 月 25 日日本部の認可を得て愈々本支部の設立を見たのである。次で 8 月 13 日の第 1 回役員會に於て爽涼の秋、吉日を卜し發會式を舉行する事に一決し、10 月 16 日九州帝國大学工学部本館に於て發會式を舉行し、続いて講演會、映畫會、晚餐會を開催し、第 2 日 17 日は北九州地方洞海湾並に關門隧道の見學會を行ふ事になつた。

本支部は九州各縣並に山口、沖繩の兩縣を包含し、従來會員 500 名を擁し、今回の新入會員 200 名を得て、發會式参加申込は豫想外に多く、當日の盛會を思はしめた。

當日朝來の薄曇りに稍秋冷を加へ、係員一同一段の緊張を覚え、早朝より會員の參集を待つた。午前 8 時 20 分頃より來會者続々入場し、午前 10 時 20 分迄に來賓 13 名、會員 198 名の多數に上つた。

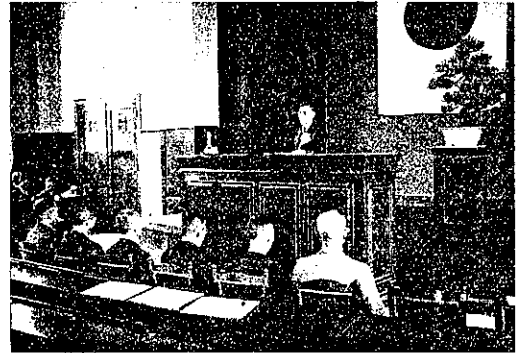
1. 發會式

式場である工学部本館大講堂の壇の後方には大日章旗が掲げられ、壇の左側には青松一鉢を据ゑたる簡素なる裝飾は却つて會場の嚴肅を保ち、非常時局下に於ける擧式に誠にふさはしきものに思はれた。

午前 10 時 25 分振鈴を合圖に着席し、次の次第に依り會員田中吉郎氏司會の下に式は進められた。

(i) 開會の辭(安藏幹事)、(ii) 東方遙拜、(iii) 國歌齊唱、(iv) 西部支部設立經過報告(鮫島幹事長)、(v) 支部長挨拶、(vi) 會長祝辭、(vii) 來賓祝辭(九

圖-7. 辰馬會長挨拶



大總長、福岡縣知事、關西支部長)、(viii) 祝電披露(大川幹事)、(ix) 閉會の辭(安藏幹事)。

(A) 西部支部設立經過報告

幹事長 鮫島 茂

本日茲に土木學會會員各位多數御臨席の下に學會西部支部の發會式を舉行するに至りました事は土木技術界の爲に誠に欣幸に報えない次第であります。

本學會は創立以來 25 年を閲し土木工学及土木技術の爲、偉大なる貢獻を遂げたる事は申す迄もありません。而して其の會員数は逐年増加して今や 7 500 名に達する盛況であります。就中其の大多數は地方在住會員でありまして、此等の人は學會の企畫する各種の催しに參與し、受益する機会に乏しく殆んど會誌のみの連絡であると云ふも過言でない状態でありまして、最も遺憾とせられた處であります。然るが故に學會に於ては數年前より全國を數區に分ち、各々支部を設け其の地方の實情に適する如き有機的活動を爲さしむる方針を樹立せられました事は誠に機宜に適した處置と申すべく、此の主旨に基き既に關西、東北、中部、北海道の各支部が次々設立を見たる次第であります。

本地方即山口、福岡、大分、熊本、佐賀、長崎、宮崎、鹿兒島、沖繩の各縣は地理的に相互極めて密接なる關係を有し、西漸する本邦産業の中心地域を占め、我土木事業も極めて發達旺盛でありまして、在住會員數 500 名を越ゆる有力なる一大分區であります。故に以て一九一〇として支部を設立するの最も必要切なるは夙に常識的に一般に考へられた處でありました。今度愈々其の機熟し、本年 5 月以来具體的準備に着手致し、會員土肥憲次郎君外 29 名は設立發起人としまして、發起人會を 6 月 10 日福岡に開催致し、支部名稱、事務所の位置、支部規定、支部内規等の草案を慎重審議決定し、且支部長の選舉を致し、此等の決議に基き學會本部と交渉手続を遂げ

した。而して又本部に於きましては其の案に基き7月
日理事會に於て、同25日常議員會に於て、夫々申請
通り承認を與へ、同日を以て愈々支部設立を見且支部
として會員君島八郎君に委嘱がありました。続いて當
支部に於ては支部規定に依りまして、支部長より役員の
編あり、茲に支部機關を完備した次第であります。爾
8月13日第1回役員會を開催し、又其等要項を本地
在住會員諸君に通知を致しました。斯くの如く本支部
創立は関係者の極めて熱心なる協力に依り順調に進
見をしまして、本日の好季節を卜し、愈々發會式を擧ぐ
の得ました事は誠に同慶に堪へざる次第であります。
幸に會員諸君本支部設立の目的趣旨に御協力御支援
賜り、將來益々其の健全なる發達を遂げ、本地方の土
学術技術の發展進歩に貢獻する効果の偉大ならむ事
祈つてやまぬ次第であります。

猶此の機會を持ちまして、會員諸君の特に御援助を仰
たき儀は、本學會は純學術團體でありまして、其の會
の多きを以て効果多く、意義が大なりとなすものであ
りまして、從つて有力なる土木関係者の全部を網羅する
を目標と致します。本地方在住者にして會員、准員、學
員の資格ありと認めらるゝ未入會者は相當多數に上
のであります。故に、本支部は目下極力其の入會方を
誘中ですが、何卒斯の如き方に特に御支援を賜
度く存じます。

又本支部は少くも毎年1回此の度の如き總會を開催
、其の他事情の許す限り講演、見學、映畫等の會合を
考へてあり、尙順次有益なる諸事業に着手の豫定で
ります。

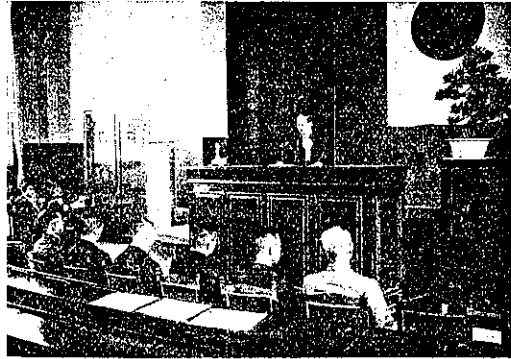
最後に特に明年秋期を期し學會の年次學術大會を當
支部に於て主催する豫定であります事を申し上げ、私の
告を終ります。

(B) 挨拶

支部長 君島八郎

今回山口縣九州一田及沖繩縣を包含する土木學會西
支部が設立されまして、既に成立して居ります關西、
北、北海道、中部の四支部と共に土木學會の地方に於
る機構が完成強化されまして、本部と共に活躍する事
出来る様に相成つた次第であります。而して當支部の
立經過に就きましては、只今岐島幹事長から報告され
通りでありまして、本日各方面から多數會員諸君の御
集を得、大學總長、縣知事閣下を始めとし本部からは
馬會長其の他各方面の有力なる方々が御參列下され
した事は當支部發會式に大なる光彩を添へたもので

圖-8. 君島支部發會式



ありまして、事務局質素乍らも莊重なる式を擧げる事
の出來ます事は當支部の欣幸とする所であります。

御參列の皆様へ厚く感謝の意を表します。

其の上更に久野助教授が外國視察を終つて歸られ、釘
宮鐵道下關改良事務所長が我が國刻下の土木事業と
して内外の注目を惹いて居ります所の、下關海底隧道を
御擔當御監を爲さる爲、最近ニューヨーク ハドソン河
及ユースト河の海底隧道ミッドタウン トンネル又はリ
ンコルン隧道等を見學研究をして歸られました御講演
を伺ひ、更に海軍の三坂大佐に御願ひして、刻下の重要
問題の御講演を伺ふ事になつて居ります。當支部發會式
に錦上更に花を加へるものとして後刻御話を伺ふ事
になつて居ります。

申す迄もなく我が國の工学團體には古く工學會と云
ふものがあり、其の中に土木、機械、電氣其他の科目が
ありましたが、丁度原始時代の八百屋であつて、米も味噌
も下駄も蓍も賣つて居た様なものであります。其の後專
門の科目が獨立致しまして、土木學會の出來ましたのは
大正3年であつたのですから、丁度25年にもなります。
其の間土木學會が土木工学の進歩と土木事業の發達に
盡した事が少なく、今や會員7000名を突破し更に5
支部が出來て益々緊密な聯携を致して技術報國に邁進
する事になりましたのは寔に有意義の事で、更に進ん
では技術聯盟と云ふ様なものに迄發展し、各々分立して居
る専門技術を統一して、國策に沿ふ強化團體たらん事は
吾々の念願であります。

抑も土木と申しますると如何にも使用致します材料
を駢べたもので、原始時代に於ては土と木などが主なる
材料でありました事と思ひます。然し其の外に金もあり、
石もあり、更に水もあり、總括的な名稱と致して如何
にも物足らないのであります。

從つて英國や米國では之を Civil Engineering と呼

んで居り、佛蘭西では Génie Civil などと申して居ります。之は平和の技術と申す意味で、要塞とか築城とかと云ふものに對して申す言葉であります。獨逸では土木を Bau Ingenieur と申し、コンストラクション又は構造技術と申して居ります。其の仕事は河川、港灣、道路、橋梁、鉄道、運河、上水、下水、水力等と申す多方面に亘つて、或は交通とか、又は衛生等と申す方面から産業の各方面に迄關聯して居るのであります。

殊に我國の如き地域狭小で人口が多く天然資源に比較的恵まれて居らない處では、勢ひ活きる道を考へなければならぬ。

即ち四面海を環らして居る水運の便利を利用して、外國から資源を齎らし、之を我國の沿岸適當な港灣に近く工場を起し、茲に加工精製致しまして、再び國外に賣出すと云ふ事が我が國の大國策でなければならぬ。國家隆盛を図る仕事は皆國策に相違ありませんが、一貫した主義方針を以て工業の振興を企てる事が、總に貫いた大國策であらねばならぬと考へます。更に我が國は東洋平和の爲に支那と干戈を交へて居りますが、他日支那民衆が目覺めた後、支那の河川、運河、鉄道、橋梁、上水、下水、水力等の工事を完成して、東洋百年の平和を對策するものは實に土木工事を始としなければならぬのであります。即ち土木學會の調査研究と云ふものが、國內より更に國外に出て生産抗充の源を立てなければならぬのであります。黄河、揚子江と云ふ様な大河の改修は内地の河川改修とは大いに其の趣を異にして居ります。河を治むるは國を治むるが如し、禹河を治めて外に在る事 13 年等と云ふて、天下を治めたと云はれた程であります。我西部支部は滿洲支那には地理から言つても最も近く便利の地にあります。將來此の方面にも亦微力を致す事が出来ると切に考へて居る次第であります。

次にもう一つ我が國に共有な風水害及高潮の害、並に地震と云ふ特種の天災地變がある。殊に颱風の如きは世界三大發生地なる太平洋の西部を持つて居り、北米合衆國南部の西印度諸島と共に猛烈を極めて居る。更に豪雨は非常に強く溪流の性質を持つた河川は屢々各地に氾濫した水害を起し、或は山崩れ、地滑り、山津浪等の災害を起して居る。今夏神戸の水害の如きは即ち之である。又高潮の如きも颱風に伴つて起りまして海岸堤防を脅かし、非常な潮害を興へる事が少くなく、近來海岸の地盤沈下と共に殊に都會地の重大問題化しつつある、若し其れ地震の害に至つては我が國の各地に起つて指を屈する處が無い程である。

以上の天災地變から起る所の災害復舊工事費は年々多額に上りまして、土木家の手腕を要するものが非常に多いのであります。災害科学として將來研究すべきものも多々益々多いが、其の復舊を完全に行つて交通機關を整備し、或は水流を改修し砂防を完備する等土木工事に俟たなければ無らぬのであります。

最後にもう一つ國防の見地から空襲に對する防備は非常に必要性を加へまして、制空が完全に行はるれば敵をして一步も手も足も出なくする事が出来る。之は現在畏くも御稜威の下に勇敢な將兵の力に依つて、支那を膺懲して居る事に依つて明瞭であります。

而して國民一般と共に防空を考へ遺憾なき様になければならぬのであります。飛行場又は空港の築造と云ふ様なものは亦土木の方面に關聯して居りまして、飛行機の進歩と共に土木に従事するものは其の研究を忘れてはなりません。

時未だ戰爭は終局するに至りません。私共は銃後に於て充分緊張して困難を克服し、一意邁進を続けなければなりません。此の時期に支部の設立せられました事は大いに意義の深いものがあります。街頭には屢々歡呼の聲に送られて戦地に赴く將兵を見送りますが、生死の境に出入して干戈を取り國の爲、又東洋の平和の爲聖戰に従事して居る人々を思ひます時は、緊張感激せざるを得ないのであります。各自邦家の爲又學問技術の爲奮闘して貢獻する處あらん事を願ひます。

一言燕辭を述べて御挨拶と致します。

(C) 祝 辭

土木學會々長 辰馬鐵藏

本日西部地方の山口、福岡、大分、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄の 9 縣を包含した土木學會西部支部の發會式を舉行せらるゝに當り會長として一言御祝を申し上げます。

先程岐阜幹事長より御報告ありし如く、本學會が大正 3 年創立せられ爾來 20 有餘年我國土木工学及土木事業の進歩發展に寄與する所少なからず、學會として其の權威を高め、今や會員も 7 500 餘名に達し益々隆盛に赴きつゝある事は誠に恭賀に不堪次第でありまして、是れ偏に會員各位の御努力、御盡力の賜であると思ふのであります。

今回の支那事變に對し、東亞永遠の平和確立の爲、聖戰が続けられて居りますが、此の戦果を全ふする爲には、國民一致協力奮闘努力を要する事は申す迄ありませんが、土木學會と致しましては時局對策委員會を設け、

学会として善處すべき報國の途を研究して居るのであります。

山來西部地方は我が明治維新の原動力となり、今日の日本を造り上げるに就き、一大貢獻を致されました事は申す迄もありません、物資は豊富であり、産業は發達し、古來より歐洲東亞との交通開け、我が國文化の先進地であり、誠に恵まれたる地方であります。然し乍ら現下の時局に當りましては、尙一層此の地方の包蔵する資源の開發に、又生産力の擴充に努力しなければなりません。此の資源開發生産力擴充の基礎をなす、土木事業の計畫實施が、第一要義であると信ずるものであります。

今や本土と九州とを、隧道を以て連絡せらるゝの日に近きにあり、海の彼方支那大陸には爲す可き多くの仕事は我が日本技術者の進出を待つて居る。日支提携には技術者の援助が政策上より申しても尤も摩擦の少き事と存じます。此の時に當り西部支部の設立を見る事は、学会の力を發展する上に於ても、充實する上に於ても、洵に意義ある事で慶賀の至りに存じます。

何卒會員各位は今後益々技術報國に精進せられ、共に相互の親密を計り、斯界の向上發展に盡されむ事を希望する次第であります。

九州帝大總長 荒川文六

本日茲に土木学会西部支部の發會式を舉行せられたるに方りまして、一言祝辭を述べざる機會を得ました事は私の最も欣幸とする所であります。

凡そ土木工学は工学の中に於きまして最も古くから發達し來りました部門でありまして、之を応用して行はれます事業は國家興隆の根柢をなし地方産業の開發に重大なる關係を有する事は言を俟たない處であります。我土木学会が其の創立以來 20 有餘年間、我が國土木工学の進歩と土木事業の發展とに盡瘁せられたる事は我々の深く感謝して已まない處であります。

現今我九州地方は本邦産業上から見まして洵に重要な地點となり、非常時に於ける生産力の擴充に大なる役割を演じて居るのであります。此等は實に當地方に於ける土木事業の發達と密接なる關係があつたのでありまして、又之と同時に今後に於ても、例へば現に計畫着手せられて居ります關門海底隧道の如き、洞海灣改修工事の如き、其の他重要な土木事業が益々盛に行はれなければならない事を深く感ずるのであります。

此の秋に方り土木学会が新に此の地に支部を設けて、斯学の振興を図り、此等の事業の發展に資せられんと致

されま事事は獨り我が九州地方のみならず國家の爲に眞に慶賀に堪えない處であります。

更に翻つて思を隣邦支那に致します時に彼我兩國の間に共存共榮の精神に基く眞の提携親善を図ります上から申しまして、治水、交通、衛生其の他あらゆる方面に於ける土木事業の振興が其の魁けをなさなければならぬ事を感ずるのであります。之を思ひます時に此の支那を一衣帶水指顧の間に望み得る我九州に當支部の設立を見ました事は洵に意義ある事と言はねばなりません。何卒會員各位に於かれまして益々奮勵一意学を究め、技を磨き此の支部が設けられました趣旨を空しくせられませぬ様に希望して已みませぬ。

謝か燕辭を陳べて祝辭と致します。

昭和 13 年 10 月 16 日 (三瀬教授代讀)

福岡縣知事 赤松小寅

土木事業は産業擴充の基礎的事業として、其の消長は國運の盛衰に影響する事甚だ大なり。

今や時局は長期戦の体制下に在り、國民の總力を動員して益々國力の充實を計り、所期の目的貫徹に邁進するを要する秋に當り、技術者一團と成り相互提携して、斯界の向上を期し、茲に土木学会西部支部の結成を見たるは洵に慶賀に堪へず。

惟ふに我が西日本の地は大陸に近く軍事、交通、産業、衛生等あらゆる部門に於て、土木技術者の活動と流瀆を要望する事切なり。希くば會員各位一層和衷協力一段の研鑽を加へ邦家の隆昌に寄與せられん事を。茲に土木学会西部支部發會の式に列するを得たる機會に祝意を呈すると共に其の將來の多幸を祈る。

昭和 13 年 10 月 16 日

(田村福岡縣經濟部長代讀)

土木学会關西支部長 島崎孝彦

本日社團法人土木学会西部支部發會式を舉行せられたるに方りまして、御祝詞を申上ぐる機會を得ました事は私の光榮とする所であります。

本学会は今や會員約 8000 人を算し、本邦学会中、最も大にして且つ權威あるものであります。而も最近其の機構を改め其の強化に努めつゝあります時に際し、曩には東北、北海道、名古屋に支部の創設を見、今や當地に西部支部の創設を見ます事は本学会が國策の線に沿ふ機能發揮の表徴として誠に慶賀に堪えない次第であります。將來之等の各支部が相互に相聯繫を保ちつゝ学

術の向上發展に盡瘁し得まする事は一層本学会の機能を擴充せしむる上に於て力あるものでありまして、寔に有意義の事と云はねばなりません。

今や國家は非常時局に直面して居ります時に方り、我々は其の本來の使命に基いて最善を盡し所謂技術報國の誠を致す事が出来まするなれば本懐之れに過ぎるものは無いのであります。

以上燕言を陳べまして御祝詞に代へます。

昭和 13 年 10 月 16 日

(關西支部荻原幹事長代讀)

2. 午餐會 (午前 11 時 30 分—午後 1 時)

工學部本館地下室の中央食堂を一般會員の晝食場所とし 3 階貴賓室を來賓に當てた。

地下室ホール内には會員田中吉郎氏の肝入りで絶へず泰西の名曲が電蓄に依り送られ非常に和やかな氣分にさせられた。早朝の薄曇もからりと晴れて、晝食を終つた會員諸氏の中には三々五々学園の芝生に転がつて、外光を浴びながら話に花を咲かせてゐる人達もあつた。

3. 講演會

午後 1 時振鈴を合図に同じ大講堂で講演會が開かれた。

先づ安藏幹事登壇して講演者を紹介し開會を宣した。

(i) ヒットラー道路に就て

(午後 1 時 10 分—1 時 55 分)

會員九州帝大助教 久野重一郎氏

最近獨逸より歸朝され具に視察研究された獨逸の自動車道路(アウトバーン)に就て、述べられ友邦獨逸が 1933 年 9 月起工した自動車道路はヒットラー總統の創意に依り計畫されたもので一名ヒットラー道路と稱し、總延長 13 000 km、路面全幅員 24 m を標準とし中央 5 m は美しき芝生にして、其の兩側 7.5 m 宛を自動車専用の往路、復路とし外側 2 m 宛は芝生とコンクリート基礎のアスファルトであつて、建設費は 1 km 當 80 萬マクと聞はれ、1938 年 6 月末現在にて 2 071 km を完成し其の 9 割迄コンクリート舗裝を施してゐるので、本道路と他の道路又は鉄道との交はる所は總て立体交叉とし、橋架は總て往路と復路とを切離した構造であつて大体は遠距離高速輸送を目的として、計畫されたものであるが、政治、經濟及軍事上重大の意義を有する道路であつて、本道路完成の曉は國境から國境へ 6 時間

以内で達する事が出来るものであると述べられ、最後に同氏滯歐中苦心撮影せられた 8 mm 映畫に依つて眼前にヒットラー道路を展開せられ、久野氏の解説と相俟つて、思はぬ見學旅行をする事が出来た。

(ii) 關門隧道に就いて

(午後 2 時—2 時 45 分)

會員鐵道省下關改良事務所長 鐵道技師 釘宮懿氏

最近歸朝せられて豊富な視察談の中で亞米利加の紐育市イーストリバーの河底を貫く Queenz Mid Town Tunnel (河底下延長 910 m、取付部分延長 1 210 m、直径 9 m 2 本)のシールド工事の實施狀況に就て、微に入り細に互つて説明せられ、其の工事寫眞のアルバムを會員一同に示され、最後に同氏の擔當する關門隧道(門司市小森江—下關市弟子待、海底下延長 1 300 m、取付部分延長 2 300 m、直径 7 m 2 本)の概要に就て説明の後、試掘坑道の地質表を掲げ下關市側約 2/3 は岩盤の見込、門司側 1/3 は花崗岩の風化にて粘土化したものにて此の部分にシールド工法を以て施工する旨を述べられ、地質の概要に就て説明をせられた。

(iii) 時局に於ける帝國海軍の使命

(午後 2 時 46 分—3 時 44 分)

佐世保海軍鎮守府人事部第一課長

海軍大佐 三坂直廉氏

我が大日本國民が太古より海の利用に就ての認識が深く、海を渡る技術も相當進歩してゐたもので、神武天皇御東征に於ける海軍や或は豊臣秀吉の朝鮮征伐に於ける海軍の活躍を説明し、朝鮮征伐後は海軍は極度に衰微し僅かに八幡船が支那沿岸に跋扈してゐたに過ぎなかつた事を述べ、明治維新以來列國の長を取り、着々海軍を整備し以來我國の海軍は長足の進歩を爲し、日清、日露の兩戰役後に於ける海軍の活躍を説明し、古來の各國の例を擧げ海を征するものよく國を制すと説き、海軍々備の完璧を期すべき事を論じ、世界大戰後の戰爭嫌惡は軍縮會議を開かしめその制限を受けたる我國海軍の苦衷を述べ、最後に我國が世界大戰後、産業其の他、あらゆる方面に海外發展を阻止せられたる爲、滿支方面への進出を餘儀なくせられたものであつて、今次事變後に於ける大陸經營に當つて大陸を根據として世界市場への進出、海上の發展は今後に於ける我海軍の重大なる使命であるであらうと述べられた。

此處に講演會を終り、君島支部長は起つて 3 氏の講演者に對し敬意と感謝の意を表する爲、拍手を以てする事を語り、嵐の如き拍手裡に 3 時 44 分感激の講演

會を閉會した。

4. 映畫會

講演會終了後5分間休憩を告し続いて、造園技師下山重丸氏が最近歐米に於て撮影せられた、天然色の歐米風景映畫は同氏の解説の下に次の順序に依つて映寫された。

(i) 獨逸自動車道路——埃勾國風光

獨逸自動車道路は久野重一郎氏の講演に關聯してゐるので一層印象が深かつた。埃勾國の風光では世界一の名園や樂聖モツアルトの記念碑或は物珍しい市街風景に一同片唾を飲んで映畫に見入つた。

(ii) サンフランシスコ——ベイブリッジ

本年1月撮影の此の劃期的大橋梁を思ふ存分フィルムで見学する事が出來た。

(iii) ワシントン市——ニューヨーク市

ワシントン市は恰度櫻祭の當日で満開の日本産櫻に慕ひ寄る人の賑ひや、遠くに白聖館を望む古名園の風景を見せられた。高層建築を誇るニューヨーク市の中でもブロードウェイの夜景、封切映畫館前の雜沓など大変興味深かつた。

(iv) ヨセミテ——新英州の紅葉

國立公園ヨセミテの風景の壯麗さ、新英州の田園風景が展開されると、ヴェイトウベンの田園交響樂が電音により演奏せられた。

(v) ナポリ風景

最後に南歐ナポリに遊んで、ベスピアス火山の噴煙、或は美しき紺碧の海の色を眺め「ナポリを見てから死ね」の謠を偲んだ。自動車を驅つてソレントへの海岸道をドライブし山と谷の街ソレントの風景をも映寫せられた。

會員一同最後迄美しい映畫に魅了せられて、時の移るのを知らなかつた。閉會午後5時20分。

5. 晚餐會 (於博多ホテル)

當初懇親の晚餐會出席者は100名位の豫想であつたが、開會前日多數出席の申込があり、出席者155名に上り會場は立錫の餘地もない盛況を呈した。

開會午後6時40分デザートコースに入るや先づ君島支部長立つて挨拶を述べ、続いて來賓を代表して辰馬會長が起ち、本會支部が廣範圍に互り會員を求め以て益々支部の強化發展を期すべきを述べられ、更に西部支部の前途を祝し一同乾杯をなした。

此の時君島支部長更に立ち上り各代表者のテーブル

圖-9. 晚餐會



スピーチを求め、先づ三瀬教授を指名した。

三瀬教授は當支部は他の支部より遅く誕生したが、月足らずでなく月が満ち満ちてゆつくりと生れた桃太郎の様な健康兒で、我々は今初旅の小さいのに困つてゐるとユーモラスな口調を以て、割れる様な拍手裡に終れば、次に伊藤下關土木出張所長が指名された。同氏は本地方は天孫降臨の地であつて、産業も文化も凡て此の地が中心となつて働き出しているもので宜しく本支部の機構を強化して其の機能發揮に盡すべきだと主張された。次に指名された淺見長崎縣土木課長は同縣代表者として、唯一人の參列者である光榮を謝し、會への希望として會費をもつと安くして一般技術者が誰でも入會出来る様にして貰ひ度い、そうすれば會員も多くなり、本會も又強化せられるのだと述べられた。次に指名された豊田福岡市土木課長は西部支部の所在地として福岡市を選ばれた事に對し一層盡力したい旨を述べられた。最後に学生代表として、富田泰雄氏(九大土木3年)が指名され、同氏は大陸文化の輸入地たる使命を帯びるに至つた、西部日本の發展を祝し、支部設立が遅きに過ぎた事を述べ、技術報國の爲、巢立つ我々を今後大いに指導鞭撻して貰ひ度いと、結べば場内は再び音律の波が渦巻き歡談の泉がテーブルからテーブルへ漲つた。

やがて一同起立して會員片山貞松氏の音頭の下に帝國の前途並に本會西部支部の發展を祝福し萬歳を3唱した。

時に午後9時30分斯くして第1日は終つた。

6. 見學會 (10月17日)

午前10時鹿兒島本線戸畑駅前廣場に集合した參加者120名は打揃つて、日本水産株式會社に赴いた。

同會社玄關前にて松尾守治氏(内務技師)の起草し

た「洞海灣に就て」と云ふパンフレットに諸會社の營業案内を添へた袋と晝食券を貰つて、同會社四階會議室に參集、此處で先づ鮫島幹事長の挨拶の後徳田文作氏（若松築港株式會社取締役）の歓迎の辭があり、続いて同會社庶務課長松崎友一氏の會社の事業に関する講演を聞いた。壇の後壁に掲げた世界地図に依り、九州、朝鮮の近海より臺灣、南洋に至る漁場を説明され、印度、カムチャツカ、南洋、メキシコ沿岸並にアラスカ近海に迄遠征して大いに水産日本の活躍の状況を詳に聞かされ、一同感嘆した。

次に松尾内務技師より洞海灣改修工事の大要に就いてお話があり、戸畑、八幡、の高港設備或は若松港の石炭積出（帆船荷役）の状況や洞海灣沿岸の利用状況に就いて説明された。次で鮫島幹事長より挨拶があり、洞海灣並に關門トンネル見学の行程に就いて御注意があつた。

之より一同5階屋上に上り、洞海灣を眼下に見下し、遙かに響灘沿岸地方を一望の内に眺めた。本社見学後別館の凍蔵庫、製氷室、碎氷室、魚市場、荷揚場等を見た。

次いで午前11時50分愈、洞海灣並に關門トンネル見学の行程に入り、一同此處でA、B、C、Dの4班に分れ、6隻の汽艇に分乗、各艇には内務省下關出張所及若松築港株式會社の係の方々に乗船され、航行の間沿岸一帯に付説明された。

船は一氣に洞海灣の奥へ進んだ。朝から案ぜられた風も午後より靜穩になつたが、尙東風稍強く時々甲板は波を被つた。船中晝食弁当、果物、菓子に舌鼓を打ちながら沿岸一帯煤煙に包まれて林立する諸會社工場、或は數百千艘に及ぶ石炭運搬の帆船の林立する若松港を眺め、灣内を一巡し、午後1時船を反転して灣口に突進した。西側防波堤を離れて響灘に出る頃、流石に波は荒く船も稍大きく動揺を始め、防波堤の有難さがしみじみ思はれた。

各汽艇は舳舳相含み、歌に名高い企救の高濱や帆柱、足立の兩山の麓に林立する工都の煤煙を遠く眺めつゝ、大瀬戸の海峡に進んだ。4班に分れた見学隊は次の順序で夫々内務省國道及鐵道の關門隧道の見学を行つた。

A 班（洞海丸）、 C 班（海峡丸）

内務省國道隧道（門司側田ノ浦工事場）

鐵道隧道（下關側弟子待工事場）

B 班（春日丸、鳴瀬丸）、 D 班（木門丸、秩父丸）

内務省國道隧道（下關側境ノ浦工事場）

鐵道隧道（門司側小森江工事場）

大瀬戸を通り左に巖流島を眺め、時速8哩と謂はれる早艇の急潮を一氣に過り、各見学班は夫々現場に上陸して、係員の方々より先づ図面に依り工事の状況に就て説明を聞き、工場の設備や地質標本を見学して後、用意されたゴムの合羽に長靴で身を固め、堅坑の入口よりエレベーターで地下に下り、説明を聞き乍ら坑道奥深く迄見学して、此の隧道工事の成功は我國土木技術界に一新紀元を劃するであらう事が想像された。

かくて午後5時第2日の見学會を無事終了し各班は夫々門司或は下關にて解散した。

八田拓相親任祝賀晚餐會

日 時：昭和13年11月15日

會 場：東京會館

出席者：125名（後記の通り）

午後5時開會、午後6時開宴、土木學會々員も近年著しく増加し、既に8000名を突破するの盛況を見るに至りたる秋に當り我土木界より八田嘉明君が選ばれて拓務大臣に親任せられた、この2つの慶に對し會員有志を代表して古川阪次郎君より祝詞を述べ、次で八田拓相の挨拶並に辰馬會長の發辭にて乾杯午後8時盛會裡に閉會せり。

因に本祝賀晚餐會に下記の如く土木界の大先輩諸君が多數臨席せられたことは本會創設以來のことで洵に慶賀に堪えない茲に附記す（口繪参照）。

祝賀晚餐會出席者芳名（五十音順）

| | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 阿曾沼均君 | 安倍邦衛君 | 青木保雄君 | 青山 士君 |
| 愛甲勇吉君 | 相原益隆君 | 新井榮吉君 | 荒池忠吉君 |
| 井上二郎君 | 伊藤孝若君 | 生駒 勇君 | 池上重吉君 |
| 石川 鼎君 | 磯海國吉君 | 稻垣兵太郎君 | 今井 哲君 |
| 今泉安之助君 | 内海清温君 | 内村三郎君 | 江澤甚一君 |
| 蓮藤藤吉君 | 大井上前雄君 | 大岡大三君 | 大河戸宗治君 |
| 大窪 正君 | 大倉榮馬君 | 大竹邦平君 | 太田尾廣治君 |
| 岡崎正伸君 | 岡崎保吉君 | 岡田信次君 | 岡田 實君 |
| 岡野 昇君 | 神龜政次君 | 萩野 廣君 | 加藤 勇君 |
| 景山 賢君 | 風間武雄君 | 金子源一郎君 | 金子 輝君 |
| 金古久次君 | 樺島正義君 | 榎木寛之君 | 川口愛太郎君 |
| 河口協介君 | 河原直文君 | 菊地 清君 | 北澤悻夫君 |
| 楠 宗道君 | 國澤新兵衛君 | 黒河内四郎君 | 小坂拓次郎君 |
| 小室毅一君 | 梶玉輝雄君 | 近 新三郎君 | 佐藤忠三郎君 |
| 佐藤利泰君 | 佐野利器君 | 廣田秀吉君 | 澁谷益吉君 |
| 島崎直也君 | 下村尚義君 | 菅原恆賢君 | 鈴木長治君 |

| | | | | | | | |
|--------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|
| 關 信 雄君 | 錢高作太郎君 | 田 井 九一君 | 田 中 豊君 | 深谷克巳君 | 藤田周造君 | 藤田弘直君 | 森宮惟一君 |
| 田村與吉君 | 高井信一君 | 高橋嘉一郎君 | 高橋繼藏君 | 古川阪次郎君 | 堀越清六君 | 真島健三郎君 | 前島健雄君 |
| 高西敬義君 | 瀧山 興君 | 辰馬謙藏君 | 谷口三郎君 | 牧野謙之助君 | 三浦 貢君 | 三浦義男君 | 溝口潔夫君 |
| 谷藤正三君 | 遠武勇熊君 | 飛鳥文吉君 | 富永正義君 | 水谷當起君 | 宮川 清君 | 宮地榮治郎君 | 宮長平作君 |
| 中島際次君 | 仲田聰治郎君 | 永井松次郎君 | 永田兵三郎君 | 名非九介君 | 茂庭忠次郎君 | 山内丈夫君 | 山田隆二君 |
| 永山在兼君 | 長屋 簡君 | 西大藤 覺君 | 沼田 政 矩君 | 山田博愛君 | 山本新次郎君 | 吉田 直君 | 吉原重明君 |
| 萩原俊一君 | 橋口行彦君 | 林 米七君 | 原 靜 雄君 | 上野有芳君 | 菅野忠五郎君 | 坂本一平君 | 林 將 治君 |
| 原田 碧君 | 田田 敏 夫君 | 平井壽久松君 | 廣瀬孝六郎君 | 山倉嘉一郎君 | | | |

そ の 他 記 事

○昭和 13 年 11 月 1 日土木學會誌第 24 卷第 11 號を發行成規の手續を了し全會員に配布せり。

入 會 及 転 格 會 員

會 員 (入 會)

| | |
|-----------|------------|
| 安 藤 天 一君 | 名古屋鉄道會社 |
| 有 馬 博 雄君 | 石川縣廳土木課 |
| 伊 藤 尙 平君 | 西島建築事務所 |
| 伊 藤 忠 五郎君 | 福岡市下水課 |
| 石 橋 實君 | 大宰田市土木課 |
| 上 田 久君 | 旭ペンベルグ絹絲會社 |
| 江 頭 進君 | 滿鉄新京工務區 |
| 小 原 親 一君 | 三井三池製作所 |
| 大野元次郎君 | 久留米市土木課 |
| 岡本玄介君 | 福岡市港灣課 |
| 笈 一 郎君 | 下水課 |
| 木 村 政 衛君 | 福岡縣廳土木部道路課 |
| 桑 本 良 作君 | 鹽埕要領司令部 |
| 小 堺 秀 次君 | 九州工學校 |

| | |
|----------|-------------|
| 小濱松三郎君 | 栗原組 |
| 小早川智義君 | 山口縣廳土木課 |
| 兒 玉 東 一君 | 鹿児島商業學校 |
| 近 藤 三 郎君 | 名古屋鉄道會社 |
| 坂 口 榮 助君 | 門司市臨時水道擴張部 |
| 鈴 木 泰 吉君 | 東邦電力會社 |
| 田 上 爲 巳君 | 旭硝子會社 |
| 田 中 國 隆君 | 若松築港會社 |
| 田 中 熊 彦君 | 〃 |
| 高 橋 繼 藏君 | 栗原組 |
| 谷 口 謙 亮君 | 三井三池製作所 |
| 坪 井 眞 事君 | 日本コンクリート工務所 |
| 戸 田 正 巳君 | 栗原組 |
| 新 谷 達 郎君 | 名古屋鉄道會社 |

| | |
|-----------|--------------|
| 野瀬源太郎君 | 久留米市土木課 |
| 早川増一郎君 | 名古屋鉄道會社 |
| 藤 井 滋 徳君 | 徳山鹽運會社 |
| 松 原 正 君 | 福岡市港灣課 |
| 三橋虎之助君 | 福岡縣箱崎土木管區事務所 |
| 三 宅 源 彌君 | 栗原組 |
| 宮 崎 義 一君 | 福岡縣戸畑港港修築事務所 |
| 村 尾 恭 一君 | 滿鉄新京工務區 |
| 森 田 次 郎君 | 福岡縣土木部河港課 |
| 守 田 道 隆君 | 八幡市土木課 |
| 谷 島 伊 三郎君 | 福岡市下水課 |
| 成 合 義 賢君 | 岐阜縣土木課 |
| 和 田 秀 夫君 | 〃 |

准 員 (入 會)

| | |
|------------|-------------|
| 青 島 榮 末君 | 内務省畿川改修事務所 |
| 厚 地 芳 雄君 | 沖繩縣廳土木課 |
| 井 上 道 照君 | 〃 |
| 飯 倉 喜 代 人君 | 別府市土木課 |
| 飯 倉 勝 君 | 内務省仙臺土木出張所 |
| 池 田 房 男君 | 疾世保海軍建築部 |
| 池 松 清 元君 | 三井三池製作所 |
| 石 田 芳 秋君 | 徳山鹽運會社 |
| 伊 藤 弘 美君 | 内務省大淀川改修事務所 |
| 入 江 善 之 輔君 | 内務省下關土木出張所 |
| 入 佐 俊 治君 | 鹿児島加治木土木出張所 |
| 上 野 尚 志 夫君 | 八幡市土木課 |
| 梅 津 摩 記君 | 内務省土木試験所 |

| | |
|------------|-------------|
| 海老原彌太郎君 | 富士川電力會社 |
| 小 川 正 嗣君 | 三井田川鐵業所 |
| 尾 崎 登 君 | 東京市土木局河川課 |
| 大 出 繁 喜君 | 内務省下關土木出張所 |
| 大 塚 篤 二君 | 別府市役所 |
| 大 貫 作 造君 | 内務省下關土木出張所 |
| 門 脇 融 君 | 撫順工業學校 |
| 川 島 常 一君 | 日鉄二瀬鐵業所 |
| 川 原 勝 重君 | 日鉄八幡製鉄所 |
| 河 窪 五 月君 | 福岡縣廳土木部 |
| 木 内 毅 人君 | 東北振興電力會社 |
| 北 村 友 一君 | 東京帝大土木教室 |
| 黒 木 七 兵 衛君 | 内務省大淀川改修事務所 |

| | |
|------------|------------|
| 黒 木 廣 君 | 三井三池製作所 |
| 黒 田 幸 一 郎君 | 東邦電力會社 |
| 小 石 勝 三 郎君 | 戸畑市土木課 |
| 小 西 勇 君 | 東洋紡績會社 |
| 古 賀 直 七君 | 福岡土木管區事務所 |
| 郷 田 孫 治君 | 内務省下關土木出張所 |
| 佐 川 喜 久 海君 | 雨龍電力會社 |
| 佐 々 木 昇 君 | 吳海軍建築部 |
| 清 水 澄 君 | 沖繩縣廳土木課 |
| 澤 田 謙 二君 | 門鉄工務部保線課 |
| 式 喜 一 郎君 | 大牟田土木管區事務所 |
| 篠 崎 於 外 吉君 | 日鉄八幡製鉄所 |
| 鈴 木 六 太 郎君 | 福岡縣廳土木部河港課 |

田口堅一君 廣島電氣會社
 田中武人君 沖繩縣廳土木課
 高笠猛君 內務省青森港修築事務所
 高田嘉門君 閩組塚原出張所
 寺澤晋君 內務省大澁川改修事務所
 中村照義君 兩龍電力會社
 中村元二君 內務省關門海峡改良事務所
 仲川平助君 日鉄八幡製鉄所
 丹羽邦延君 名古屋鐵道會社
 西井爲治君 阪神上水道市町村組合
 西久保茂治君 內務省緑川改修事務所
 西森寛君 八幡市土木課
 新田亮君 東京市港灣部
 野口富雄君 三井三池製作所
 芳賀政人君 戸畑市土木課

羽仁勇君 八幡市土木課
 原幹君 門鉄工務部係線課
 久富幸太郎君 三井三池製作所
 人見信吉君 “
 俵口富士夫君 福岡土木管區事務所
 平原利久君 東京府第四道路出張所
 廣田兼賀君 日鉄八幡製鉄所
 福田勝君 內務省大澁川改修事務所
 古澤弘君 熊本縣宮地土木管區事務所
 堀龍雄君 滿鉄北支事務局
 本田定夫君 別府市土木課
 牧之段元二君 沖繩縣廳土木課
 松井一助君 “
 松浦一男君 東京府第一道路出張所
 松岡貞雄君 兩龍電力會社

三井義雄君 內務省緑川改修事務所
 三原貞行君 日鉄八幡製鉄所
 宮秀直君 東京府第一道路出張所
 村井利雄君 農業自營
 森永時雄君 杵島炭礦會社
 山本亮介君 福岡市港灣課
 吉田勇君 東邦電力會社
 渡部武男君 足尾銅業所
 麻生謙二君 岐阜縣土木課
 加藤義夫君 “
 金丸義晃君 金澤高工土木教室
 熊谷貞男君 “
 吉村幸一君 “
 遠山隼人君 山口縣土木課
 伊藤南海夫君 內務省富土川改修事務所

学 員 生 (入 會)

栗飯原好次君 徳島高工
 荒武俊太郎君 熊本高工
 有田達君 九州帝大
 伊住謙吾君 熊本高工
 伊藤尊戸君 “
 五十嵐正武君 京都帝大
 石川高明君 九州帝大
 入江守君 熊本高工
 上野義一君 “
 上野拓一郎君 “
 植松由太郎君 北海道土木専門部
 植山健君 熊本高工
 内田一郎君 九州帝大
 榎木一郎君 “
 浦田浩行君 熊本高工
 榎本盛彦君 “
 越智通和君 徳島高工
 太田豊君 熊本高工
 岡田秀穂君 九州帝大
 岡部秀守君 熊本高工
 加藤利徳君 “
 上遠野教典君 仙臺高工
 何景福君 哈爾濱工業大学
 梶野正幸君 徳島高工
 河角鶴夫君 九州帝大
 栗栖義明君 京都帝大

小宮正香君 熊本高工
 古賀寅彦君 “
 古賀頼四郎君 九州帝大
 纈纈三郎君 日大工学部
 坂井昌彦君 熊本高工
 坂本博司君 “
 崎坂師志君 “
 櫻井昇之助君 “
 澤村武助君 九州帝大
 下川清満君 熊本高工
 白石健次郎君 “
 新開勝衛君 仙臺高工
 清家一郎君 熊本高工
 田中正信君 京都帝大
 田野義則君 熊本高工
 田村房治君 日大高工
 多田重恭君 九州帝大
 高瀬千年君 熊本高工
 武本孝義君 “
 橘政夫君 “
 千葉胤一君 北海道土木専門部
 月本達彌君 九州帝大
 辻弘太郎君 “
 中野新策君 熊本高工
 中村益雄君 “
 長尾照夫君 九州帝大

長田辰郎君 山梨高工
 二ノ上哲雄君 九州帝大
 長谷川健吾君 “
 畠山貞男君 北海道帝大
 濱島藤市君 熊本高工
 原榮次郎君 “
 原明治君 九州帝大
 原田昇君 “
 春田幾郎君 熊本高工
 日比野志朗君 九州帝大
 彦坂良次君 “
 藤井勤君 “
 藤本啓君 熊本高工
 堀已義君 “
 本田富雄君 “
 馬越道也君 “
 眞砂董元君 “
 松田仁君 九州帝大
 松村壽三君 熊本高工
 松本功君 “
 三野定君 九州帝大
 美和研介君 熊本高工
 溝口衛君 “
 宮澤信男君 仙臺高工
 宮代正之君 京都帝大
 宮原逸郎君 熊本高工

宮本健藏君 熊本高工
 村上三郎君 "
 村田輝夫君 "
 村田秀雄君 "
 毛利忠徳君 "
 森茂太郎君 "
 森馨一君 徳島高工
 森増利君 熊本高工
 安河内麻雄君 九州帝大
 安浪金藏君 "
 山川啓作君 "
 山脇易郎君 熊本高工
 横山正夫君 "
 吉田勝英君 日大工学部
 吉原重久君 九州帝大
 劉恒興君 哈爾濱工業大学
 劉世凱君 "
 阿部順造君 金澤高工
 相本正君 "
 秋山正木君 "
 淺岡一雄君 "
 井上昇君 "
 池上清行君 "
 石尾修造君 "
 石河光久君 "
 今市卯兵衛君 "
 今西清君 "
 尾田行正君 "
 大谷正夫君 "
 大西俊郎君 "
 奥野勝次君 "
 笠谷正博君 "
 門野正一君 "
 神山慶三君 "
 上埜安郎君 "

龜澤壽二君 金澤高工
 木下悦男君 "
 木下淑夫君 "
 木島利三郎君 "
 岸本智君 "
 岸本雅吉君 "
 北田祐一君 "
 北山盛久君 "
 吉川安正君 "
 清川吉雄君 "
 工藤純二君 "
 桑下淑郎君 "
 鴻野五八郎君 "
 佐藤正憲君 "
 酒井正男君 "
 清水俊男君 "
 鹽谷昌次君 "
 茂田澄君 "
 七野隆君 "
 杉山壯平君 "
 瀬島克仁君 "
 關秀一君 "
 田淵敬明君 "
 高井芳一君 "
 高橋到君 "
 龍田速成君 "
 玉田利明君 "
 辻村勇吉君 "
 鶴谷久二君 "
 徳永安利君 "
 富岡政太郎君 "
 名倉豊君 "
 中村重信君 "
 中村智君 "
 西川孝一君 "

西川潤也君 金澤高工
 西田貞一君 "
 花岡春助君 "
 白野友三君 "
 楡垣喜一君 "
 飛彈俊雄君 "
 平賀誓君 "
 廣瀬隆一君 "
 深田武俊君 "
 藤田勲君 "
 古田宇三郎君 "
 逸見二良君 "
 堀田義人君 "
 増田秀雄君 "
 松井亮治君 "
 松谷優君 "
 三浦敏郎君 "
 三谷力君 "
 水野雄五郎君 "
 宮木聞得君 "
 向井廣君 "
 迎辰男君 "
 村上正雄君 "
 餅田保君 "
 元信和甫君 "
 森田盛夫君 "
 柳澤四郎君 "
 山本巖君 "
 山本欽一君 "
 吉岡賀君 "
 木田朝男君 "
 和田久範君 "
 石川修君 徳島高工
 管波育造君 "

會 員 (転 格)

上野庄三君 三井三池製作所
 城内清太郎君 門組下關支店
 菊池三吉君 滿鉄々道總局工務局
 北村正之君 内務省名古屋土木出張所
 久保道雄君 京都市土木局
 草間康二君 廣鉄工務部改良課

小仲次郎君 滿鉄々道總局工務局
 小林賢治君 鉄興社
 小林仁三郎君 關東州廳土木部
 小林吉雄君 横濱賀海軍建築部
 古賀哲君 滿鉄牡丹江建設工務所
 兒玉芳夫君 鹿兒島縣加治木土木出張所

木庭了君 朝鮮總督府鉄道局
 後藤茂君 和原乳
 是核賀君 福岡縣土木部河港課
 近藤市三郎君 大阪市港灣部
 坂上種正君 内務省土木試験所
 佐藤勇夫君 天津水利工務局

佐藤健吉君 齊々哈爾濱鐵路工務課
 佐藤雄太郎君 廣島市土木部
 齋藤清次郎君 京濱電力會社
 櫻木興一君 逕信省燈臺局
 澤田利夫君 哈爾濱市工務處
 清水勇君 徳山清水組
 清水一君 滿洲牡丹江土木建設處
 白石競君 横須賀海軍建築部
 白石幸三郎君 白石基礎工事會社
 神宮寺務君 山梨縣鹽山土木出張所
 杉浦文雄君 奉天鐵道總局水運局
 杉江政道君 東北復興電力會社
 鈴木平君 大倉土木會社
 鈴木山次郎君 内務省香川國道改良事務所
 瀬戸政章君 滿洲齊々哈爾濱土木建設處
 關一雄君 朝鮮鐵道局
 田中秋大君 朝鮮釜山土木出張所
 田中武一君 秋田縣土木課
 田中千束君 長野縣土木部
 田中求君 出雲電氣會社
 高橋勝利君 滿洲哈爾濱建設事務所
 高橋咲保君
 高橋正久君 兵庫縣土木部河港課
 高橋誠君 内務省仙臺土木出張所
 武田眞君 宮城縣電氣局
 谷口清治君 東京市金町淨水所
 玉田博一君 内務省矢作川改修事務所
 力石眞男君 横須賀海軍建築部
 塚田英雄君 逕信省電力管理準備局

樋野正雄君 大阪市水道部下水管理課
 辻新君 關東州廳土木部
 手塚武宜君 東邦電力會社
 豊田松吉君 奉天鐵道總局建設局
 名畑繁君 江界水力電氣會社
 檜原恭爾君 豊島師範學校
 中澤政次君 築城部本部
 中津海俊雄君 逕信省鐵道部高雄保線區
 永田伊之助君
 長澤遊行君 齊々哈爾濱鐵道局
 丹生一夫君 鬼怒川水力電氣會社
 新山政志君 昭毅江水電會社
 西川義雄君 鹿島組
 西畑忠雄君 東京電燈會社
 野田良人君 日本化成工業會社
 長谷川泰博君 鐵道省信濃川電氣事務所
 羽中田參次君 滿洲交道部道路司
 橋本克太君 廣島市水道部
 半田博君 建設總署北京公路工程局
 日野龜雄君 秋田縣土木課
 曳地初太郎君 東京電燈會社
 兵頭仁君 吉林省土木廳
 平田茂憲君 瀋江省土木廳
 深町新平君 奉天鐵道總局建設局
 福田榮三郎君 東鉄新橋保線區
 藤井博希君 三井三池製鐵所
 藤下五郎君 中央電氣會社
 藤田忠夫君 吳海軍建築部
 星野忠男君 東京市水道局給水課

堀田之武君 山形縣寒河江土木出張所
 前川正君 福井縣廳土木課
 松岡雅彦君 朝鮮釜山土木出張所
 水野健三君 間組
 宮澤徳司君 滿洲航路司調査科
 村松秀雄君 山口縣廳土木課
 望月一輔君 澁谷公路工務局
 山口直樹君 東京電燈會社
 山崎博君 内務省熊野川改修事務所
 山田昌君 平安北道土木課
 山本匠君 大林組
 山本芳樹君 白石基礎工事會社
 湯川利勝君 鐵高組
 楊學庸君 錦州省民生廳土木科
 吉藤幸朔君 特許局
 和田清隆君 札幌土木事務所
 若崎秀雄君 東京市小河内貯池建設事務所
 渡邊逸三君 哈爾濱市工務處建築科
 松井正邦君 臺灣員前溪治水工事々務所
 山根長次郎君 明計製糖會社
 田上稔君 滿洲白城子建設事務所
 平田正二君 鴨綠江水電會社
 三浦瀨君 滿洲交道部道路司
 横井孝一君 滿鉄欽化工務區
 横澤富三郎君 逕信省電氣局水力調査課
 横田周平君 内務省土木試験所
 吉田赴君 逕信省電氣局水力課
 吉田忠君 錦縣鐵道局工務課
 吉田吉秋君 内務省尺龍川改修事務所

准 員 (転 格)

稻川哲夫君 須崎海軍建築部

肥後春生君 大分縣土木課

土 木 学 會 々 員 数

| 會 員 | 准 員 | 学 生 員 | 特 別 員 | 賛 助 員 | 合 計 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 3 151 | 3 5:9 | 1 005 | 77 | 21 | 7 793 |

准 員 北村英次郎君は今次の支那事変に於て名譽の戦死を遂げらる、本會は恭しく哀悼の意を表す。

准 員 久米 鏡君, 黒岩 直君, 對馬久敏君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す。

八田拓相親任祝賀晩餐會



昭和13年11月15日
於東京會館



上圖は古川阪次郎君の祝辭
下圖は挨拶を述べらる八田拓相

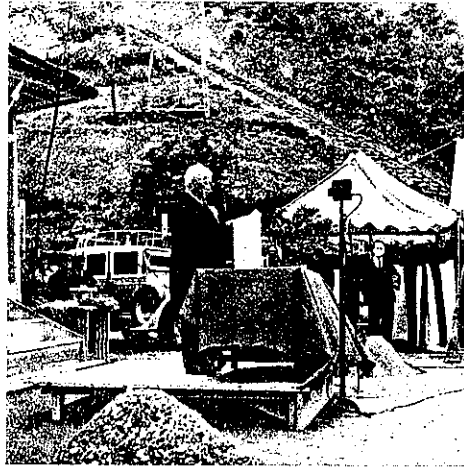
小河内貯水池地鎮祭

(時報欄参照)

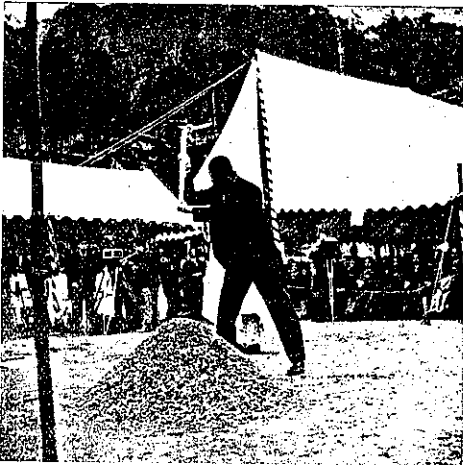
神前に献饌の儀



祝辭を讀む小橋東京市長



鍬入れを爲す龜田技師



地鎮祭式場全景



寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
 2. 頁数 頁数は本會の原稿用紙 180 枚 (本會誌 30 頁) 以内とされ度し。若し前記頁数を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
 3. 文体 文体は文章的口語体とす。本文に重要な関係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基き適當の字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
 4. 書体 横書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば n と u , u と v , r と v , a と α , r と γ , d と δ , その他 C と c , K と k , O と o 等頭字と小字とを判然たらしむる事。
 5. 數字名數 數字は 3 桁毎に間隔をあける事名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。
例へば
35 錢 (三十五錢), 13.56 円 (十三円五十六錢), 1~4 時間 (一時間乃至四時間),
88 326 t (八萬八千三百二十六噸), 昭. 13. 1. 1. (昭和十三年一月一日),
m (米), m³ (立方米), kg (斤), 83.4 尺 (八丈三尺四寸)
 6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し (本會制定用語は本會發行の土木工學用語集参照)。
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
 7. 図表 (1) 図表は図-1, 表-1 等と書き図表題を記すこと。
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。
(3) 図面はその儘縮寫し得る様にトレーシングペーパー, オイルペーパー, トレーシングクロス等とすること。
(4) 図表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。
(5) 方眼紙は青野のものを用ひ (黄色, 赤色の罫は使用せざる事) 縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。
(6) 図表の文字數, 字は特に大きく書かれ度し, 縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2mm 程度となる様され度し。
(7) 図表類は版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。
 8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
 9. 其他 (1) 論說報告は邦文に限る。
(2) 講演及論說報告には必ず英文要旨及邦文要旨並に著者の職名勤務所名を添附され度し。
- 附記 (1) 彙報, 時報, 抄録及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。
(2) 講演, 論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 30 部を寄稿者に贈呈致します。尙 30 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に応じます。

會 告

時報、會員の頁記事及工事寫眞募集

◎時報欄は下記内容の記事を掲載する事になつてゐますから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

- A. 土木工事の計畫、設計、施工の進捗、竣工の狀況、金額等のニュース
- B. 土木工学界の内外学協會、調査會、委員會等の設立、調査研究事項並に報告其他會議、催物の簡單なる紹介
- C. 官廳、會社、公共團體の組織事業に関するニュース
- D. 法規、示方書、規定等の紹介

◎會員の頁は會員諸君の土木工学、土木工事、土木學會、土木技術社會に對する批判、時評、感想、希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

◎工事中又は竣工せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい。

◎掲載の分には薄謝を呈上致します。

図書室及娯楽室御利用に就て

本會所有の図書及雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娯楽室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時、 自7月21日至8月31日 及土曜日 自午前9時至午後4時、
自1月4日至7月20日

但し 日曜日及祭日休

図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました、又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其の他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 径 14 mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 賞費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 14 錢を要す)



(實物大)

會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

| 會 費 | 會員種格 | 會費年額 | 第 1 期分 (1月~6月) | 第 2 期分 (7月~12月) |
|-----|------|--------|-------------------|--------------------|
| | 會 員 | 金 12 円 | 金 6 円 | 金 6 円 |
| | 准 員 | 金 9 円 | 金 4.50 円 | 金 4.50 円 |
| | 学生員 | 金 6 円 | 金 3 円 | 金 3 円 |

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月
納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下
さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄に爲替その他の方法に依り御送金相成度し。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下され度し。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は
會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を
停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 1 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。
發行後數ヶ月経過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

既刊會誌殘部内譯

(*は残部有るものを示す)

| 巻 | 號 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 金額(1部) |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|------------|
| 6 | — | — | * | — | — | * | — | — | — | — | — | — | — | 1.00 |
| 7 | — | * | * | * | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 1.50 |
| 8 | * | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 2.00 |
| 9 | * | * | * | — | * | * | — | — | — | — | — | — | — | 2.00 |
| 10 | — | * | * | * | * | * | — | — | — | — | — | — | — | 2.00 |
| 11 | — | * | * | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 2.00 |
| 12 | — | * | * | — | * | * | — | — | — | — | — | — | — | 2.00 |
| 13 | — | * | * | * | — | * | — | — | — | — | — | — | — | 2.00 |
| 14 | * | * | * | * | * | * | — | — | — | — | — | — | — | 2.00 |
| 15 | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | 1.00 |
| 16 | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | 1.00 |
| 17 | — | * | * | * | * | * | * | * | * | — | * | * | — | 1.00 |
| 18 | — | — | — | * | * | * | * | * | * | — | — | — | — | 1.00 |
| 19 | * | * | * | — | * | * | * | * | * | * | * | * | * | 1.00 |
| 20 | — | * | * | — | — | — | * | * | — | — | * | * | * | 1.00 |
| 21 | — | — | * | * | * | — | * | * | * | * | * | * | * | 1.00 |
| 22 | — | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | 1.00 |
| 23 | — | * | * | — | — | — | * | * | * | * | * | — | — | 1.00 |
| 24 | — | * | * | — | — | — | * | * | * | * | * | — | — | 1.00 |
| 第 20 卷第 12 號 (創立 20 周年記念號)..... | | | | | | | | | | | | | | 1.50 |
| 第 21 卷第 7 號 (會誌索引付)..... | | | | | | | | | | | | | | 1.30 |
| 震害調査報告書 (1, 2, 3)..... | | | | | | | | | | | | | | 18.00 |
| 応用力学聯合大會講演集..... | | | | | | | | | | | | | | 1.00 |
| 鉄筋コンクリート標準示方書}..... | | | | | | | | | | | | | | 1.00 |
| 同 上 解 説}..... | | | | | | | | | | | | | | |
| 土木工学論文抄録..... | | | | | | | | | | | | | | 3.50 |
| 土木学会誌索引 (第 1 卷第 1 號~第 20 卷第 12 號)..... | | | | | | | | | | | | | | 0.50 |
| 土木工学用語集..... | | | | | | | | | | | | | | 2.50 (送料別) |

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣 告 料

| | | | | |
|------|---------------------------|-----|-------|-----|
| 普通廣告 | 1回 1頁 | 35円 | 1回半頁 | 20円 |
| 指定廣告 | {裏表紙3面對 向及廣向初頁 色アート | | 1回 1頁 | 40円 |
| | | | 1回 1頁 | 60円 |
| | | | | |

- 指定廣告は凡て1年継続申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の1割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては1年4回以上1割引とす
- 廣告に寫真版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

昭和13年11月25日印刷 昭和13年12月1日發行 (定價金1円)

東京市牛込區南町33番地
編輯兼發行者 中 村 孫 一
東京市神田區美土代町16番地
印 刷 者 島 連 太 郎
東京市神田區美土代町16番地
印 刷 所 三 秀 舎

東京市麴町區丸ノ内3丁目6番地

發 行 所 社 團 土 木 学 會
法 人

電 話 丸ノ内(23) 3945番, 振替口座東京16828番

DOBOKU-GAKKAI-SI

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY)

VOL. XXIV, NO. 12, DECEMBER 1938.

CONTENTS

| | Page |
|---|------|
| Proceedings of the Society | 105 |
| Address | |
| On the Engineering Works in the North China. <i>By Muncharu Ōkōdo, Dr. Eng., Previous-President.</i> | 1281 |
| On the Engineering Works in the North China. <i>By Eikiti Arai, Dr. Eng., Vice-President.</i> | 1287 |
| Papers | |
| Recommendation of Lyse's Theory and Method of Proportioning Concrete. <i>By Minoru Utiyama, C. E., Member.</i> | 1293 |
| Internal Stresses caused by the Contraction of Concrete. <i>By Keizirō Ogawa, Dr. Eng., Member.</i> | 1309 |
| Various Condition to be considered in the Dam Construction for Water Power Development. <i>By Masahiro Matuda, C. E., Member.</i> | 1312 |
| Construction Work of Uryū River Water Power Plant. <i>By Tatusi Matuno, C. E., Member.</i> | 1314 |
| Reclamation Work of Atami Beach. <i>By Midori Harada, C. E., Member.</i> | 1318 |
| Method of Determination of Steel Area for Reinforced Concrete Rectangular Cross-Section under Eccentric Load. <i>By Eikiti Takeda, C. E., Member.</i> | 1322 |
| Sand Hill Cutting around Shimokō, Inafuku Line. <i>By Kōzaburō Okano, Assoc., Member.</i> | 1324 |
| Notes on Matters of Interest | 1331 |
| Abstracts of Selected Articles | 1345 |
| Current Notes | 1385 |
| Engineering Literatures | 1393 |
| Patent News | 1401 |
| New Publications | 1403 |

OFFICE

No. 6, 3-TYŪME, MARUNOUTI, KŪZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.

昭和十三年十一月二十五日印刷納本
昭和十三年十二月一日發行
(毎月一回一日發行)
土木學會誌
十二號